

青森県の 市町村 情報



鰺ヶ沢町ミニデータ

- 人口 8,856人
(男4,139人、女4,717人)
- 世帯数 4,379世帯
(令和5年5月31日現在)
- 特産品
メロン、スイカ、米、リンゴ、アユ、イトウ、ヒラメ、ヤリイカ

【概況】青森県の西海岸に位置し、南北に細長く、広大な土地を有する地域で、面積の8割を山林で占められています。北は日本海、南には世界自然遺産「白神山地」を有し秋田県と接しています。歴史は古く、津軽藩発祥の地とされています。

鰺ヶ沢町発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。今回は『Café 水とコーヒー』をご紹介します。店主の太田正史さんにお話を伺いました。



▲「Café 水とコーヒー」の太田正史さん。

自社製品を活かしたカフェで 会社にも地域にもプラスに

「Café 水とコーヒー」は、自家焙煎の豆を「白神山地の水」で抽出したコーヒーを提供する店。町の観光拠点である「海の駅わんど」の中に、平成30年9月、オープンしました。立ち上げたのは、白神山地の水の製造販売を手掛ける「白神山美水館」三代目社長の太田正史さんです。

白神山地の水は非加熱処理でポトリングされているため、口当たりまろやか。この水でコーヒーを抽出すると美味しいという声を多く聞いたことから、10年ほど前青森市の自家焙煎コーヒー店「コーヒーカーラズ」から仕入れるコーヒーと水のギフトセットを販売するようになりました。コーヒーカーラズから淹れ方を教えてもらい、イベント出店時には、水の販売に加えコーヒーを提供するようになりました。このイベント時の店舗名が「水とコーヒー」でした。それから数年が経った頃、わんどの一角にカフェを出さないかと声が掛かりました。「私は、カララズの木村さんのコーヒーを初めて飲んだときに衝撃を受けました。今まで飲んだのはコーヒーではないと思

うほど美味しかったです。そこからコーヒーの魅力に引き込まれて。ゆくゆくは私も、自分で焙煎したコーヒーを提供したいと思う気持ちを持つようになりました。そういう中で、地元でチャンスを探していた。不安もありましたが、思いきって引き受けることにしたんです」と太田さん。観光協会の理事を務めていたこともあり、地元の活性化につながることで、雇用の助けにもなること、白神山地の水も知ってもらえる機会も増えることなど、様々な効果への期待が後押しとなり、新たな挑戦が始まったのです。

「自分たちの挑戦が 町の役にも立てば嬉しい」

カフェの立ち上げにより太田さんの生活は激変しました。特に当初は毎日のように自ら店に立ち、当時幼かった子どもたちと遊ぶのが難しく、「家族は大変だった」と思っています。少しでも夜は妻が休めるよう気をつけたり、両親にも手伝ってもらいながらなんとか乗り切りました」と振り返ります。現在はスタッフも充実し、みんなで今後の展開について思案を巡らせているそう。「カフェという場所ができたことで、可能性が広がりました。スイーツを提供したり、商品を仕入れたり。教室を開いてコミュニティの場所を提供できれば、まちとしてもいい流れができるんじゃないかと思っています」。

お客さんの声を直接聞けるようになり、やりたいことが増えていくと微笑む太田さん。「まちが盛り上がりなければ、カフェも盛り上がりません。自分たちが何かに挑戦していくことで、まちにもいい流れをつくりたいというのが、ひとつの目標です」。

私が男女共同参画を 担当しています

鰺ヶ沢町 政策推進課
政策調整班 主幹
中村 祐介 さん



鰺ヶ沢町では、令和4年3月に、男女共同参画を一層推進することを目的に「第2次鰺ヶ沢町男女共同参画推進プラン」を策定しました。このプランは、男女共同参画社会の実現を目指す個別計画であると同時に「女性活躍推進計画」、「DV防止基本計画」として位置付けるものです。さらに、新たに性的マイノリティに関する理解促進についても施策化しました。これから徐々に浸透していくよう目指したいと思います。

また、鰺ヶ沢町は、西北地域の男女共同参画地域ネットワークに参画しています。昨年度は鰺ヶ沢町が事務局を担当し、1月に西北地域男女共同参画ネットワーク「参画まぐ・ねっと」の会員の方々を対象とした勉強会を開催しました。テーマは「男女共同参画の視点からの防災」。同年度の8月に大雨災害に見舞われたことから実施したものです。防災に男女共同参画の視点を取り入れることで、より細やかな支援が可能となること、被害の縮小や災害に強いまちづくりが可能になることなどの講師のお話は、私どももとても勉強になりました。今後に活かしていきたいと考えています。「Café 水とコーヒー」については、新青森駅にも出店されており、鰺ヶ沢町や白神山地の名前が広まることをとても嬉しく思っています。これからの活躍にも期待しています。

(取材：井藤 雪香)